

趣旨説明

水辺の自然再生共同シンポジウム実行委員長

高橋 清孝

今年、2016年、生き物と共生する大崎市が誕生10周年を迎え、大崎市品井沼の地名を冠するシナイモツゴが発見100周年を迎えました。大崎市のゆたかな自然を象徴する生き物の一つであるシナイモツゴを絶やすことなく保全していくため、節目の年を記念し、市内外から識者を招いて最新知見を紹介いただき、方策を語り合いたいと考えます。

近年、国土の14%に過ぎない平野部に人口が集中し、さまざまな開発行為や外来種の侵入などにより、多くの生き物が減少し絶滅の危機に陥っています。一方、身近な里山のため池や里地の小川には貴重な動物が驚くほどたくさん生息しています。水中では魚、貝、エビ・カニ、水生昆虫など、岸部ではカエルやサンショウウオそしてこれらを餌とする鳥や哺乳類など、訪れるたびに新たな出会いに感動することができます。里山・里地の水辺の豊かな自然を守り復元するため、私たちは、一貫して科学的な対処方法を開発すると共に、市民・農民レベルでの取り組みを実践してきました。

今回は豊かな自然を次世代へ継承するために、大崎市品井沼の地名を冠する絶滅危惧種シナイモツゴの保全と根本的な対策が急務となっている外来生物対策を中心課題として最新知見の紹介と議論を行うことになりました。

第1部では、地域の宝シナイモツゴを次世代へ引き継ぐため、内外で活動している団体や研究者に最新知見や取り組みの実態を紹介していただきます。

第2部ではアメリカザリガニ対策でシナイモツゴ郷の会が取り組んでいる連続捕獲装置と魚醬の開発、そしてナマズのがっこうが取り組んでいる水田魚道について、それぞれ、実物を展示します。

3部では豊かな自然を守るために最重要課題となっている外来生物対策の新技术や知見を報告します。特にブラックバス駆除と合わせて実施が必要とされるアメリカザリガニ対策について最新知見を報告します。さらに総合討論で地域との連携や技術開発のあり方について広範囲に意見を求めたいと考えます。